25-450

訴訟手續

目次

第一章　諸裁判所及大審院權限　一丁
第一　治安裁判所　一丁
第二　始審裁判所　二丁
第三　控訴裁判所　三丁
第四　大審院
第二章　控訴手續　四丁
第一　控訴スルヲ得ヘキ事件
第二　控訴スルヲ得ヘキ日限及始審裁判所ヘ屆出ノ件　四丁
第三章　上告手續　一

第一　上告スルヿヲ得ヘキ事件　二
第二　上告ヲ受理セラレサル事件　六丁
第三　上告スルヿヲ得ヘキ日限及上告狀認方並差出方　七丁
第四　上告狀ニ添テ金圓預ケ方及原裁判所ヘ届方　九丁
第五　被告人呼出及答辨日限並原被對審ノ事　十丁
第四章　出訴期限　十二丁
第五章　解訟　十七丁
第六章　訴答書類ノ定則
第一　原告人ヨリ被告人住所身分ノ書付ヲ取ル事　十八丁
第二　訴狀ノ定則ノ事　十八丁
第三　答書ノ定則ノ事　二十丁
第七章　諸種ノ訴狀ノ書式
第一　貸附米金滯ノ訴狀　廿一丁
第二　預ケ米金滯ノ訴狀　廿二丁
第三　賣掛代金滯ノ訴狀　廿二丁
第四　手附金賣買違約ノ訴狀　廿三丁
第五　受負料滯ノ訴狀　廿四丁
第六　奉公人違約及給料滯ノ訴狀　廿四丁
第七　專賣免許ヲ犯シタルノ訴狀　廿五丁
第八　商社中取引ノ訴狀　廿六丁
第九　夫妻離別ノ訴狀　廿六丁
第十　養子女ヲ離別スル訴狀　廿七丁
第十一　家督相續ノ訴狀　廿八丁

第十二　地所建物山林等賣買違約及貸地貸家取戻ノ訴狀　廿八丁
第十三　經界ヲ爭フ訴狀　廿九丁
第十四　控訴及上告ノ訴狀　廿九丁
第十五　一冊ノ訴狀ハ一事件ニ止ル可キ事　三十丁
第十六　一冊ノ訴狀ニ二件以上ヲ合スヲ得ル事　三十丁
第十七　原告人連名ノ訴狀　三十一丁
第十八　連名ノ被告人ヲ訴フル訴狀　三十一丁

第八章　諸種ノ答書ノ書式

第一　原告人ノ返リ證文ヲ所有シタル答書　五十丁
第二　原告人ヨリ返濟延期ヲ破リタル答書　五十一丁
第三　原告人證書ヲ僞造シタル答書　五十一丁
第四　經界ヲ爭フ答書　五十二丁
第五　負債主別ニ其債主ヨリ受取ル可キ米金アルキ　五十二丁
第六　其差引ヲ接續セル答書　五十二丁
第六　負債主ヨリ他ヘ貸附置タル米金ヲ以テ債主ヘ返濟セシヿヲ接續セル答書　五十三丁
第七　對決前熟議解訟ヲ爲シタル答書　五十三丁
第八　對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書　五十四丁
第九　對決前他人代償延期ヲ約シ解訟スル答書　五十四丁
第十　對決前他人代償延期ヲ約シタル答書　五十五丁

第九章　民事訴訟用印紙貼用方

第一　請求ノ金額價額ニ應シ印紙貼用方　六十五丁
第二　人事其他金額ニ見積ル可ラサル者ヘ貼用方　六十六丁

第三　謄本下附ノ時差出ス受取書及勘解表ニ署名ノ時貼用方　六十七丁
第四　印紙ノ種類定價及貼用消印方　六十八丁
第十章　呼出狀ヲ受ケタル者遲不參スル節處分方　六十九丁
第十一章　訴訟入費
第一　訴狀其外書類幷飜譯及繪圖認料　七十丁
第二　證人引合人並原被告人直者ノ手當旅費及通辨雇料　七十二丁
第三　使賃及郵便電信料　七十四丁
第十二章　身代限諸規則
第一　華士族平民身代限規則　七十六丁
第二　借倡身代限規則　七十八丁
第三　同居異產及別居異產ノ子弟等身代限　八十丁
第四　身代限ニ遭フ者ヘ對シ期限未滿內ノ貸金穀アル者財產糶賣金ノ分配ヲ得ヘキ事　八十丁
第五　身代限ニ遭フ者期限未滿內ノ債主ニ對シ滿期ニ至リ返濟スルヲ得可キ事　八十二丁
第六　身代限ニ遭フ者ノ地所ヲ質入書入ニ取リタル債主其揭示中ニ訴出サルモ先取ノ特權アル事　八十三丁
第七　身代限ニ遭フ者ノ物品處分　八十四丁
第十三章　金穀貸借請人證人辨償規則　八十四丁
第十四章　利息ノ成規
第一　利息ノ制限　八十六丁
第二　利息計算方　八十七丁

第三　裁判上ニ於テ私約ノ償金罰金等ノ處置　八十九丁
第十五章　財産書入質入ヨリ起ル訴訟ノ處分
第一　動産不動産ヲ書入金穀借入ヨリ起ル訴訟　九十丁
第二　質地ヨリ起ル訴訟　九十丁
第三　一箇ノ地所建物ヲ二重三重ニ書入金穀貸借ノ處分　九十一丁
第四　質入書入ノ地所建物天災流亡等ノ節代質無之時ノ處分　九十三丁
第十六章　諸種ノ訴訟ノ處分
第一　連借ヨリ起ル訴訟　九十四丁
第二　負債者失踪後ノ訴訟　九十五丁
第三　夫妻離縁ノ訴訟　九十六丁
第四　預ケ金穀ヨリ起ル訴訟　九十六丁
第五　無期限貸借ノ訴訟　九十七丁
第六　院省府縣等及郡區戸長ヘ對スル訴訟　九十八丁
第七　課税及備荒儲蓄又ハ區町村會等ニ不服ノ訴訟　九十八丁
第十七章　年月畧記ノ證書ヲ證據物トスル事　九十九丁
第十八章　詞訟代人　百丁
第十九章　傍聽　百丁
第二十章　雜件
第一　司法省ヘ對シ歎願或ハ再審願ハ採用セラレサル事　百一丁
第二　建物ニ付訴訟スル片裁判所ヨリ其建物ニ戸長ノ公證ヲ差留ラルヽ事　百一丁

訴訟手續

中里篤信編纂

第一章　諸裁判所及大審院權限

第一條　治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス（十四年第八十三号布告第一條）

治安裁判所ハ訴訟ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ為ス（同第二條）

治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルヿヲ得ス（同第三條）

第二　始審裁判所

始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上幷ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所權外人事其他金額ニ見積ル可カラサル者ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス同第四條

始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス、但控訴ノ手續ハ明治十年第十九号布告控訴手續ニ照準スヘシ同第五條

本年第二号布告ヲ以テ始審裁判所管内ニ支廳ヲ被置候ニ付テハ民事ノ訴訟ハ支廳ヘ出訴スヘキモノト雖モ被告人ノ承諾ヲ得タル上ハ其承諾書ヲ添始審裁判所ヘ出訴スルヿヲ得、但支廳管内ニアル治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ニ於ケルモ本文ト同シ十六年司法省甲第二号告示

〔第三〕控訴裁判所

控訴裁判所ハ始審裁判所ノ裁判ニ服セスシテ控訴スル者ヲ覆審ス十年第十九号布告上等裁判所章程第一條○上等裁判所ハ控訴裁判所地方裁判所ハ始審裁判所ト改稱セラルヽニ付更訂ス以下同シ

〔第四〕大審院

大審院ハ民事刑事ノ上告ヲ受ケ控訴裁判所以下ノ審判ノ不法ナル者ヲ破毀シテ法憲ノ統一ヲ主持スルノ所トス同上大審院章程第一條

審判ノ不法ナル者ヲ破毀スルノ後他ノ裁判所ニ移シテ之ヲ判決セシム又便宜ニ大審院自ラ之ヲ判決スルヿヲ得同第二條

已ニ他ノ裁判所ニ移シテ之ヲ判決セシムノ後其裁判所亦大審院ノ旨ニ循ハサル時ハ大審院自ラ之ヲ判決ス同第三條

陸海軍裁判所今之ヲ廢シ軍ノ裁判權限ヲ越ユル者ハ其裁判ヲ破毀シテ之ヲ當然ノ裁判所ニ付ス同第四條

各判事ノ犯罪其違註犯ヲ除クノ外大審院之ヲ審判ス同第五條

内外交渉民刑事件ノ重大ナル者ヲ審判ス同第六條

各控訴裁判所ヨリ送呈スル所ノ死罪按ヲ審閲シ批可シテ送還ス其否

トスルモノハ更ニ律ヲ擬シテ還附ス（同第七條）

○第二章　控訴手續

〔第一〕控訴スルヿヲ得ヘキ事件

凡ソ始審裁判所ノ初審ニ服セスシテ再ヒ控訴裁判所ニ訴ヘ覆審ヲ求ムル者之ヲ控訴ト云フ（同上控訴上告手續第一條）

控訴ハ民事ニ止マリ刑事ニ及ハス（同第二條）

控訴ハ一ダビスルヿヲ得（同第三條）

控訴裁判所ニ捧クルノ訴狀ハ訴答文例ニ照準スヘシ（同第八條）

〔第二〕控訴スルヿヲ得ヘキ日限及始審裁判所ヘ屆出ノ件

始審裁判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ爲シタル時原告被告ノ雙方又ハ一方ノ者其裁判ニ不服ナル時ハ裁判言渡シヨリ第七日マテニ裁判言渡ノ翌日ヨリ數フ裁判言渡ノ事理ヲ熟考シ其翌日ニ至リ控訴スルヿヲ得ヘシ但シ訴

訟ノ案件商事ニ係リ急速ニ控訴スルヿヲ要スルノ場合ニ於テハ七日内ト雖モ控訴スルヿヲ得（同第四條）

始審裁判所ノ裁判言渡ヨリ二ケ月（三十日ヲ以テ一月トス）ヲ過ルキハ控訴スルヿヲ許サス但シ始審裁判所ヨリ控訴裁判所ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キキハ期限二ケ月ノ外八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ增スヘシ（同第五條十五年第廿一号布告改正）

控訴ヲ爲ス者ハ其初審ヲ受ケタル始審裁判所ニ屆ケ出ツヘシ但シ添翰ヲ乞フニ及ハス（同第六條）

前條ノ屆ヲ受取リタル始審裁判所ハ裁判言渡ノ執行ヲ停止スヘシ若シ控訴裁判所ノ請求アル時ハ始審裁判所ニ於テノ訴狀答書口書裁判見込等ヲ差出スヘシ（同第七條）

〔註〕控訴ノ訴狀認メ方ニ係ル件ハ第七章（第十四）控訴及上告ノ訴狀ヲ參看スヘシ

○第三章　上告手續

〔第一〕上告スルヿヲ得ヘキ事件

各裁判所ノ終審ヲ不法ナリトシ大審院ニ向テ取消ヲ求ムル者之ヲ上告ト云フ（同第九條）

上告スルヿヲ得ルノ事件ハ

第一　裁判所管理ノ權限ヲ越ユ

第二　聽斷ノ定規ニ乖ク

第三　裁判法律ニ違フ（以上同第十條）

陸海軍ノ裁判權限ヲ越ユル者ハ之ヲ大審院ニ上告スルヿヲ得（同第十一條）

民事ノ上告スルヿヲ得ル者ハ己ニ控訴裁判所ニ控訴シ其審判ヲ經タル者ニ限ル（同第十四條）

〔第二〕上告ヲ受理セラレサル事件

大審院ハ上告ヲ受クルノ所ニシテ控訴ヲ受クルノ所ニアラス故ニ控訴スヘキノ事ヲ以テ誤テ上告スル者アルモ之ヲ斥ケテ理セス

凡ソ上告シタル者已ニ大審院ノ判決ヲ經レハ更ニ訴フルヿヲ得ス

大審院ニ於テ判事審聽シ不當ナル上告ナリト決スル時ハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ受理セサルノ旨ヲ言渡スヘシ（以上同第十一條十三條二十條）

〔第三〕上告スルヿヲ得ヘキ日限及上告狀認方幷差出方

上告ヲ爲ソト欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二月內ニ上告狀ヲ大審院ニ捧クヘシ而ソ同時被告人ニ通知スルヿヲ要ス若シ原裁判所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ニ遠キ時ハ二月ノ外八里毎ニ一日ヲ增ス此定期ヲ過レハ上告スルヿヲ許サス

上告狀中ニハ必ス左ノ事實ヲ記載スヘシ

第一　原告人ノ住所身分氏名

第二　代言人アレハ其住所身分氏名
第三　被告人住所身分氏名
第四　證人又ハ引合人アレハ其住所身分氏名
第五　始審裁判所ニ出訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及ヒ裁判言渡ヲ受ケタル年月日
第六　控訴裁判所ニ控訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及ヒ裁判言渡ヲ受ケタル年月日

上告狀ハ正本一冊及ヒ副本五冊ヲ差出スヘシ

上告狀ニハ必ス左ノ書類ヲ添ヘ差出スヘシ

第一　始審裁判所ニ於テノ訴狀幷ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫
第二　控訴裁判所ニ於テノ訴狀幷答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫
第三　上告狀中ニ憑據トナス書類ノ寫ノ各書類ニ番号ヲ朱書シ編

シテ一冊ト爲シ又ハ葉數多ニ付編シテ幾冊ト爲シタル者

右ノ訴狀又ハ答書及ヒ憑據ノ書類ノ寫ヲ所持セザル者ハ原裁判所ニ出願シ裁判所ノ簿冊ヲ訟庭ニ取下ケ見坐ノ目前ニ於テ之ヲ寫シ取ルヿヲ得ヘシ

若シ原裁判所ニ於テ書類寫取ノ出願ヲ許サヽルニ因リ上告人其寫ヲ出シ能ハサル時ハ其旨ヲ上告狀中ニ記載スヘシ（以上同第十五條）

上告狀ハ原告人自ヲ之ヲ捧クルモ又ハ代言人ヲシテ之ヲ捧ケシムルモ本人ノ意ニ任ス（同第十九條）

〔第四〕上告狀ニ添テ金圓預ケ方及原裁判所ヘ届方

上告者ハ其上告狀ニ添テ金拾圓ヲ大審院ニ預クヘシ若シ其金高ヲ預ケサルトキハ上告ヲ爲スヿヲ得ス

第一　若シ上告ヲ取上ケサルトキハ其預金ヲ沒入ス

第二　若シ上告ヲ取上ケ原裁判ヲ破毀シタル時ハ預リ金ヲ還付ス

第三　若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對審シタルノ後之ヲ斥ケテ原裁判ヲ破毀セサル時ハ預リ金ヲ沒入シ又訴訟入費規則ニ照シテ被告人ノ費用ヲ償ハシム（被告人ト上告者ノ相手方ヲ云フ）同第十六條

上告ヲ爲ス者ハ先ツ原裁判所ニ届出ツヘシ原裁判所ニ於テハ書類ヲ三日内ニ大審院ニ遞送スヘシ同第十七條

上告ニ付テハ裁判ノ執行ヲ停メス大審院已ニ原裁判ヲ破毀スルニ至レハ即日原裁判所ニ通報シテ大審院ヨリ執行ヲ止メ更ニ審判落着ノ郵信ヲ發ス日ニ至テ前ノ執行ヲ取消シテ後ノ裁判ヲ執行セシムヘシ、但内國人ヨリ裁判外ノ人民ニ對シ又ハ裁判外ノ人民ヨリ内國人ニ對スル上告ハ原裁判ノ執行ヲ停ムヘシ同第十八條

〔第五〕被告人呼出及答辨日限并原被對審ノ事

判事審聽シテ當然ノ上告ナリトシ之ヲ判決スヘキ旨ヲ言渡シタル時ハ其後二日内ニ被告人呼出狀ヲ仕出スヘシ此ノ呼出狀ニハ上告狀ノ副本ヲ添フヘシ同第廿一條

被告人ハ呼出狀ヲ受取タルヨリ三十日内ニ答辨書ヲ作リ自身又ハ代言人ヨリ之ヲ大審院ニ捧クヘシ但被告人ノ住所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キトキハ八里毎ニ一日ヲ增スヘシ同第廿二條

大審院ニ於テ被告ノ答辨書ヲ受取リシトキハ院長ヨリ判事ノ中ニ於テ一人ノ主任ヲ命シ一件書類ヲ取纏メ遲緩ナク一件始末書ヲ作ラシメ然ル後ニ原被對審ノ日ヲ豫定シ三日以前ニ原被對審ノ呼出狀ヲ原被雙方ニ送達スヘシ同第百三條

原被對審ノ節ハ判事席ニ臨ミ最初ニ主任判事一件始末ヲ宣讀シ次ニ原告ノ陳述次ニ被告ノ陳述次ニ原被交互ノ論辨ヲ審聽シ而シテ後ニ

原告人上告理アリト決スルトキハ何々ノ理由ヲ以テ原裁判所ノ裁判ヲ破毀スルニ付更ニ其裁判所ニ於テ裁判ヲ受クヘキ旨又ハ大審院ニ於テ裁判スヘキ旨ヲ言渡スヘシ 同第廿四條

若シ原告人ノ上告理ナシト決スルトキハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ斥クル旨ヲ言渡スヘシ 同第廿五條

〔註〕上告ノ訴狀認メ方ニ係ル件ハ第七章(第十四)控訴及上告ノ訴狀參看スヘシ

○第四章　出訴期限

金穀貸借ヲ始メトシ物品賣買ヨリ其外種々ノ取引等ニ至ルマテ雙方ノ者互ニ受取渡ノ期限ヲ定メ條約ヲ結ヒ置キタルニ一方ノ者其條約ヲ破リタル時ハ早速裁判所ヘ出訴イタシ不苦候處延期ノ勘辨ヲ加ヘ出訴ヲ見合候者モ有之是亦慈愛ノ人情ニテ尤ノ事ニ付早速出訴イタシ候トモ又ハ勘辨ヲ加ヘ候トモ人民ノ自由ニ任セ出訴期限ノ法則不相定候處右延期勘辨中數多ノ歳月ヲ過去リ出訴致シ候時ハ貸方借方請人証人ノ内死亡又ハ轉住又ハ失踪等ノ者モ有之事理曖昧ニ立至リ裁判上不都合不少候ニ付訴訟ノ事柄ニ因リ夫々出訴ノ期限ヲ定候條來明治七年一月一日ヨリ後ニ結ヒタル條約期限ニテ右出訴期限ヲ過去リ出訴セサル者ハ自分條約ヲ取消シタル者ト看做シ受取ヘキ者ハ受取ルヘキ權利ヲ失ヒ引渡スヘキ者ハ引渡スヘキ義務ヲ免レ候事ト相定メ候ニ付若シ出訴致シ候トモ取上不致候此旨布告候事 六年第三百六十二号布告

出訴期限規則

一學藝ノ授業料

一旅籠料

一運送賃
一飲食料
一手附金
一商人互ノ賣掛金
一職人ノ手間代金
一日雇人ノ給料
一請負金
一芝居等ノ木戸錢又ハ棧敷錢等
一男女藝者ノ揚代金
右ハ六ヶ月限以上同第一條
一醫師ノ診診及ヒ藥料
一授業師ヨリ門弟ニ給與シタル飲食料

一商人ヨリ商人ニ非サル者ヘノ賣掛代金
一一ヶ年期マテノ奉公人給料
右ハ一ヶ年限以上同第二條
一期限ヲ定メタル貸附米金及ヒ利息アレハ其利息
一期限ヲ定メタル預米金及ヒ利息アレハ其利息
一家屋及ヒ土地ノ借賃
一小作米金
一證據金
一敷金
一物品ノ借賃又ハ損料
一養育料
一七ヶ年期マテノ奉公人給料

一期限ナキ年金及一生涯ノ年金

右ハ五ケ年限以上同第三條

一條約証書中期限ナキ者ハ出訴ノ日ヲ期限ト看做シ候故何時出訴致シ候テモ苦シカラサル事同第四條

〔註〕無期限ノ證書ヲ取置キ後日訴出ルトキハ裁判申渡ノ日ヨリ濟方スヘキ月數ハ第十六章(第五)ヲ參看スヘシ

一從前取結ヒタル條約ニテ明治六年十二月三十一日以前ニ條約期限ノ切レタル事件ハ右明治六年十二月三十一日ヲ條約ノ期限ト看做スヘシ又從前取結ヒタル條約ニテ其期限ノ明治七年一月一日後ニ及フ事件ハ條約期限ノ切レタル翌日ヨリ第一條第二條第三條ノ種類ニ從ヒ出訴ノ期限ヲ起算致スヘキ事、但明治五年壬申第三百号布告第三條ニ定メタル規則ハ格別ナリ同第五條

〔註〕勸解出願中ニ出訴期限ノ滿期ニナルトキハ其勸解不調ノ翌日ヨリ滿三十日間ノ猶豫ヲ與ヘラルヘシ但右三十日迄ニ出訴セサルトキハ該事件ニ付出訴ノ權利ヲ失フモノトス

○第五章　解訟

原告人ヨリ差出シタル訴狀ノ取リ下ケヲ願出ル時ハ取リ下ケヲ爲ス事ノ理由ヲ審問シ原告人ニ於テ出訴スルノ權利ヲ抛棄スル事ヲ申立ルニ於テハ原告人ヲシテ何々ノ理由ニ因リ出訴スルノ權理ヲ抛棄スルニ付キ控訴又ハ上告ヲ爲サヽルノ旨ヲ記載シタル願書二本ヲ受取リ其一本ハ裁判所ニ留置キ其一本ニ願意ヲ聞届ケタル旨ヲ朱書シ裁判所ノ印ヲ押シ下戻ス可キ事、但裁判官ヨリ理解ヲ爲シ訴狀取下ケ願ヲ出サシムルヲ得ス八年司法省甲第十六号布達

○第六章　訴答書類ノ定則

〔第一〕原告人ヨリ被告人住所身分ノ書付ヲ取ル事

訴訟ヲ爲サントスル原告人ハ其管轄ノ町村役場ノ添翰ヲ以テ被告人ノ現住管轄ノ町村役場ニ至リ被告人ノ身分ノ書付ヲ取タル後訴狀ヲ作ル可シ若シ住所氏名身分明瞭ナラハ其書付ヲ取ルニ及ハス

住所トハ某府縣管下某國某郡某町村住居又ハ寄留ト記スノ類身分トハ官名役名華族士族神職僧尼百姓何職何商賣何渡世ト記スノ類

若シ一戸ノ本主ニ非スシテ子弟又ハ厄介ノ類ハ某ノ子弟又ハ某厄介ト記スヘシ六年第二百四十七号布告第一條

原告人被告人ト管轄ヲ異ニシ道路隔絶ナラハ原告人我管轄ノ町村役場ニ願ヒ役場ノ文通ヲ以テ被告人ノ氏名住所身分ノ書付ヲ取ルモ亦妨ケ無シトス但シ役場文通ノ入費ハ原告人ヨリ償フ可シ同第二條但書略ス

〔第二〕訴狀ノ定則ノ事（甲）第一号書式參看スヘシ

訴狀ヲ作ルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一　訴狀ハ簡明確實ニシテ憑據ト爲ス可キ事件ヲ掲ケ文飾冗長ナラサルヿニ注意シ自己ノ想像ヲ以テ踪跡ナキ事件ヲ述ルヿヲ得ス

第二　一切ノ書狀ハ首ニ原被告人ノ氏名ヲ記シ住所自分ヲ肩書ニシ其末ニ年月日ヲ記シ原告人ト代書人トノ氏名連印スヘシ但書略ス

〔註〕本文代書人ノ件ハ七年第七十五号ヲ以テ自今原被告人訴狀答書及ヒ雙方往復文書ヲ作ルニ代書人ヲ用ヒスシテ自書スル共總テ本人ノ情願ニ任スヘキ旨ヲ布告セラルヽニ付消ル

第三　訴狀ノ末ニ署スル氏名ハ其本人自署ス可シ若シ自書スルヿ能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第四　訴狀ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具ス可シ但書略ス

第五　被告人ノ住所呼出ヲ受ク可キ裁判所ノ八里ノ距離外ニ在ル時ハ其里數ヲ被告人ノ氏名ノ左側ニ記載ス可シ若シ八里以内ナル時ハ其里數ヲ記載スルニ及ハス以上同第六條

〔第三〕答書ノ定則ノ事(乙)第一号書式参看スヘシ

答書ヲ作ルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一　被告人裁判所ノ呼出狀ト共ニ原告人ノ訴狀ヲ受取ル時原告人ノ陳述スル所條理アラハ速ニ熟議シ原告人之ヲ許諾セハ解訟ヲ請フ事ヲ得ヘシ其場合ニ於テハ代書人ヲシテ熟議解訟ノ答ヲ作ラシメ之ヲ裁判所ニ呈ス可シ

〔註〕代書人ノ件ハ訴狀定則ノ註参看スヘシ

第二　原告人ノ述ル所非理不實ニシテ辨解ス可キ確證アラハ其書類ノ全文ヲ寫載シ次ニ非理不實ノ事ヲ書ス可シ

第三　答書ノ首ニ被告人ノ氏名ヲ記シ住所自分ヲ肩書ニシ答書ノ末ニ年月日ヲ記シ被告人ト代書人トノ氏名連印アル可シ

第四　答書ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ユ可シ若シ本人自署スルヿ能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記ス可シ

第五　答書ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具ス可シ以上同第三十三條

○第七章　諸種ノ訴狀ノ書式

〔第一〕貸附米金滯ノ訴狀(甲)第二号書式参看スヘシ

貸附米金等滯ノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ米金元利ノ計算ト貸渡シタル年月日トヲ標記シ次ニ證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ期ヲ過キテ返濟セサル事情ヲ書ス可シ

田畠ヲ貸渡シタル小作米金又ハ物品ノ損料金又ハ諸種ノ立替金又ハ

召抱人等ノ引負金又ハ職人等ノ前貸米金又ハ貸地貸家等ヲ受取ラン
トスルノ訴狀モ亦本條ニ照スヘシ但書畧ス（同第七條）

〔第二〕預ケ米金淹滯ノ訴狀

預ケ米金淹滯ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ米金ノ員數ト預ケタル年月日
トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約シテ返濟セサル事情
ヲ書スヘシ

借地等ノ敷金又ハ妻及ヒ養子女等ノ持參金又ハ實家若クハ親族等ノ
仕送リ金ヲ受取ントスルノ訴狀モ亦本條ニ同シ（同第八條）

〔第三〕賣掛代金淹滯ノ訴狀（甲第三号書式參看スヘシ）

賣掛代金淹滯ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ金高ヲ標記シ次ニ其帳面總計
ノ高ヲ出シ之ニ被告人ノ證印アルヿヲ記入シ次ニ違約淹滯シタル事
情ヲ書ス可シ

賣掛代金又ハ旅籠代金賄代金等通帳附込帳ニ被告人ノ證印ナキ時ハ
原告人ノ證據ト爲スヿヲ得ス（同第九條）

〔註〕本文前項被告人ノ證印アルヿヲ記入ノ件ハ十年第四十四号布
告ヲ以テ六年第三百三十九号布告人民相互ノ諸證書面ニ實印ナキ
證書ハ裁判上證據ニ立サル旨ヲ廢セラルヽニ付消ル又後項ノ如キ
ハ証書ナシト雖モ實際確證ト爲ルヘキ端緒アルトキハ裁判上証據ト
ナルコトアルヘシ

〔第四〕手附金賣買違約ノ訴狀（甲第四号書式參看スヘシ）

諸物品ヲ買ヒ手附金ヲ渡シ約定期限内ニ殘金ヲ渡サントスル時ニ至
リ被告人違約シテ諸物品ヲ渡サヽルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ買附タ
ル物品ノ總高次ニ手附金ヲ渡シタル年月日及ヒ殘金ヲ渡シ物品ヲ受
取可キ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違

約ノ事情ヲ書ス可シ日[illegible]

諸物品ヲ賣リ手附金ヲ受取リ約定期限ニ至リ殘金ヲ受取ル可キ時ニ被告人違約シテ殘金ヲ渡サヽルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ手附金ヲ受取リタル年月日及ヒ殘金ヲ受取リ物品ヲ渡スヘキ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約條書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ（同第十條）

〔第五〕受負料淹滯ノ訴狀

諸職業受負淹滯ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ受負ヒタル年月日ト受負ノ金高ト既ニ受取リタル金數ト未タ受取ラサル金數トヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ（同第十一條）

〔第六〕奉公人違約及給料淹滯ノ訴狀

奉公人ニ年期ヲ約シ前金ヲ渡シ其年期未滿内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取返サントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ抱入レタル年月日ト約定ノ年期ト前渡シノ金數トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ

職業傳習ノ弟子職業練習ノ後ハ禮奉公ノ年期ヲ約シ年期未滿内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取戻サントスルノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ

奉公人又ハ弟子奉公ノ者等其主人師匠ヨリ受取ル可キ給米金淹滯ノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ（同第十二條）

〔第七〕專賣免許ヲ犯シタルノ訴狀

專賣ノ免許ヲ得タル者ヨリ他ノ模倣密賣スル者ヲ差留メントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ專賣免許ヲ得タル年月日ト免許ヲ受タル役所ノ名ト專賣免許ノ年限トヲ標記シ次ニ免許ノ證印又ハ證書ヲ寫載シ次ニ其密賣ノ事情ヲ書ス可シ

諸商工專賣ノ免許ナシテ株式ト稱スル者ハ自己ニ妨アルヲ以テ他

人ノ商業ヲ差留ル事ヲ訴ルヿヲ得ス同第十三條

〔第八〕商社中取引ノ訴狀

商社中甲ノ商人ヨリ乙ノ商人ニ對シ各種ノ取引ノ米金又ハ物品ノ類ヨテ乘合商賣ト稱スル者モ證書確實ナル者ハ之ヲ訴ルヿヲ得可シ其訴狀ハ取引ノ模樣ニ付キ各種ノ本條ニ照ス可シ

先ニ開キシ商社ニ後ニ開カントスル商社ノ妨クルヿアルヲ以テ之ヲ訴ルヿヲ得ス但シ專賣免許ヲ犯スヿヲ得サルノ法ト相牴觸スルヿナカルヘシ同第十四條

〔第九〕夫妻離別ノ訴狀(甲)第六号書式參看スヘシ

夫妻離別ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ夫妻ノ氏名生年及ヒ婚姻ノ年月日ヲ標記シ次ニ其戸長役場ヘ届置キタル戸籍人別ヲ寫載シ次ニ離姻ヲ爲ス可キ原由ヲ書ス可シ

原告人夫ナレハ其父母若シ父母在ラサレハ祖父母祖父母在ラサレハ尊族ノ親尊族ノ親アラサレハ同等ノ親同等ノ親在ラサレハ卑族ノ親卑族ノ親在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ爲ス可シ

原告人妻ナルモ前條ニ照シテ其父母親族等ヨリ訴フ可シ若シ事危急ニ出テ親族等ニ告ルニ暇ナキ時ハ自ラ訴フ事ヲ得可シ同第十五條

〔第十〕養子女ヲ離別スル訴狀

養子女ヲ離別スルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ養父母及ヒ養子女ノ生年ト其養子女トナシタル年月日ヲ標記シ次ニ原被雙方ノ戸籍人別ヲ寫載シ次ニ離別ス可キ原由ヲ書シ原告人親族在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ爲ス可シ

本生父母ヨリ養子女ヲ取戻サントスルノ訴狀モ本條ニ照ス可シ若シ

本生父母在ラサレハ其親族ヨリ訴ルヿヲ得ヘシ

養子女ヨリ養父母ヲ相手取リテ自ラ離別ヲ請ノ訴ヲ爲スヲ得ス第十六條

〔第十一〕家督相續ノ訴狀

家督相續ヲ爭フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ亡父母ハ死亡ノ年月日生父母ハ其生年ト原被告人生年トヲ標記シ次ニ其原被雙方ノ戸籍ハ別ト讓狀遺狀等ノ證書アレハ其全文ヲ寫載シ次ニ自己相續ス可キ條理ト被告人相續ス可キ條理ナキヿヲ書ス可シ同第十七條

〔第十二〕地所建物山林等賣買違約及貸地貸家取戻ノ訴狀

田畑山林屋敷建家等ヲ買ヒ之ヲ受取ラントスルノ訴狀及ヒ貸地貸家ヲ取戻サントスルノ訴狀モ第十條ノ第一項手附金賣買違約ノ訴狀ニ照ス可シ

田畑山林屋敷建家等ヲ賣リ之ヲ引渡シテ其代價受取ントスルノ訴狀モ第十條ノ第二項ニ照ス可シ同第十八條

〔第十三〕經界ヲ爭フ訴狀（甲）第七號書式參看スヘシ

國郡鄕村山川田宅等ノ分界ヲ爭フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ其舊記繪圖ノ枚數ヲ標記シ次ニ被告人ノ非理ヲ書ス可シ

舊記繪圖ノ寫ハ別冊トナシ目錄ヲ附シ各番號ヲ朱記ス可シ

繪圖ハ色ヲ以テ區別シ原告ノ區域ハ淺紅色ヲ用ヒ被告ノ區域ハ黃色ヲ用ヒ爭フ所ノ區域ハ着色ヲ用ヒス其他ノ經界ハ別色ヲ用ユ可シ同第十九條但書參照ス

〔第十四〕控訴及上告ノ訴狀

原被告人預審又ハ終審ノ裁判言渡ヲ受ケ其裁決ニ服セスシテ之ヲ上等ノ裁判所ニ控告セントスルノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト其年月日ト裁判所ニ呼出サレタル度數其年月日ト訟庭ニ臨ミタル裁判役ノ氏名ヲ知ルヿヲ得可キニ於テハ之ヲ記載シ次ニ其裁判言渡書ノ

寫ト裁決ニ服セサルノ旨趣トヲ書シ且ツ前訴狀ノ寫ヲ別冊ト爲シ訴出可シ但シ控告人ノ住所ト控告ヲ爲ス裁判所トノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ得ルノ外裁決ノ言渡ヲ受タル日ヨリ三ケ月ノ期限ヲ過ル時ハ控告ヲ爲スヿヲ得ス（同第二十條第一項）

〔註〕本項末段三ケ月トアルハ十年第十九號布告控訴手續第五條丁五ニ依リ消ル○出訴ノ手續ハ第二章及第三章參看スヘシ

〔第十五〕一冊ノ訴狀ハ一事件ニ止ル可キ事

原被告人共人員多少ニ拘ラス訴狀ハ一事ヲ一冊ニ書スルニ限ル可シ又原告人一名ニシテ仝時ニ數件ヲ訴フルモ訴狀ヲ各冊ニ作ル可シ（同第二十一條）

〔第十六〕一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スルヲ得ル事

貸借二事以上ニシテ原被告人共別人ニ非レハ一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スヲ得可シ（同第二十二條）

〔第十七〕原告人連名ノ訴狀（甲）第八号書式參看スヘシ

債主連名ノ證文ヲ以テ米金等ヲ貸附タル訴狀ハ連名ヲ以テ訴フ可シ若シ債主連名三人ナルヲ一人ニシテ訴フル時ハ他ノ二人ヨリ依頼ノ證書ヲ以テ訴フ可シ（同第二十三條）

債主二人以上ニシテ管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ訴フルモ乙ノ管轄ニ訴フルモ其便宜ニ從フ可シ（同第二十四條）

〔第十八〕連名ノ被告人ヲ訴フル訴狀（甲）第九号書式參看スヘシ

負債主連名ノ借用證文ヲ以テ貸渡シタル米金等ノ訴狀ハ連名ノ人數ヲ盡ク相手取ル可シ（同第二十五條）

負債中連名中若シ失踪死亡等ニテ相續人ナキ者アラハ連名ノ末ニ其人名ヲ記シ年月日失踪死亡等ノ事ヲ其者ノ管轄戸長某ヨリ承ルト附

載スヘシ（同第二十六條）

負債主ノ連名中管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ於テ審判スルヲ願モ乙ノ管轄ニ於テスルヲ願フモ原告人ノ情願ニ任ス可シ（同第二十七條）

（甲）第一号（本号ヨリ第九号ニ至ル）同上布告訴答文例附錄美濃紙大半紙又ハ右寸法訴狀表紙ノ式ニ同シキ紙ヲ用ユヘシ

年月日

某訴訟

住所
身分
氏名

某訴狀トハ假令ハ貸金ノ滯滯ヲ訴ルハ貸金催促ノ訴狀ト記シ流質地ノ爭訟ハ流質地引渡催促ノ訴狀ト記スノ類

訴狀ノ式

某訴

住所
身分
原告人　氏　名

住所
身分
被告人　氏　名

標記云々

右原告人氏名申上候私儀云々

年月日

氏名印

某

裁判所長

氏名

〔註〕原文ニハ代書人ノ住所身分氏名印ヲ書入タレ共七年第七十五号布告ニ依テ代書人ハ消ユルニ付除ク又宛所書式ハ六年第三百十二号布告ニ據テ更正スルモノナリ以下皆同シ

(甲)第二号

貸金催促ノ訴狀

原告人　身分　氏名

住所

被告人　身分　氏名

一元金何圓年月日貸附

一利金何圓年月日期限一年又ハ一月幾分ノ利

合何圓

右證文ノ寫左ノ如シ

借用證文

一金何圓

右云々

貸主
名宛
右原告人氏名申上候云々

年月日
某

借主
氏名
證人
氏名

住所
身分
氏名印

(甲)第三号
賣掛代金滯ノ訴狀

裁判所長
氏名

賣掛代金滯ノ訴

住所
身分
原告人
氏名

住所
身分

一金何圓　被告人　氏　名

右掛賣帳ノ總計高ニ御座候

但帳面ニ被告人ノ證印有之候

若賣掛帳ニ非スシテ證文ナラハ其證文全文ノ寫ヲ出ス可シ

右原告人氏名申上候云々

年　月　日　氏　名　印

某裁判所長

氏　名

(甲)第四号

買附米引渡違約ノ訴狀

住所　原告人　氏　名
身分

住所　被告人　氏　名
身分

買附米引渡違約ノ訴

一米何石　年月日買取約定濟ミ
此度受取ル可キ石高
一石ニ付代金何圓何圓換

內何圓年月日手附金トシテ渡濟
殘何圓年月日限現米引替ニ渡ス可キ約定
右約定證書ノ寫左ノ如シ
證書云々
右原告人氏名申上候云々
年月日
某
裁判所長
氏名　　氏名印

(甲)第五号
賣附生絲代金引渡違約ノ訴狀

賣附生絲代金引渡違約ノ訴

住所
身分　原告人　氏名

住所
身分　被告人　氏名

一金何圓年月日限生絲引替ニテ受取可キ殘金高
元金何圓年月日生絲何斤賣附約定ノ金高
但何斤ニ付何圓替
內何圓年月日手附金トシテ受取濟
右約定證ノ寫左ノ如シ

證書云々
右原告人氏名申上候云々
年月日
某
裁判所長
氏名

氏名印

(甲)第六号
妻離別ノ訴狀

住所
身分

原告人　氏名

住所
身分

被告人　氏名

妻離別ノ訴

夫　氏名當何歳
妻　氏名當何歳
年月日娶ル
某御役所ニ差出置候年月日ノ戸籍人別帳ノ寫左ノ如シ
人別帳云々
右原告人氏名申上候云々
年月日
前書申上候處相違無御座候也

氏名印

年月日　原告人ノ祖父母父母等　氏名印

氏名印

某裁判所長

氏名

(甲)第七号

經界ヲ爭フ繪圖ノ式

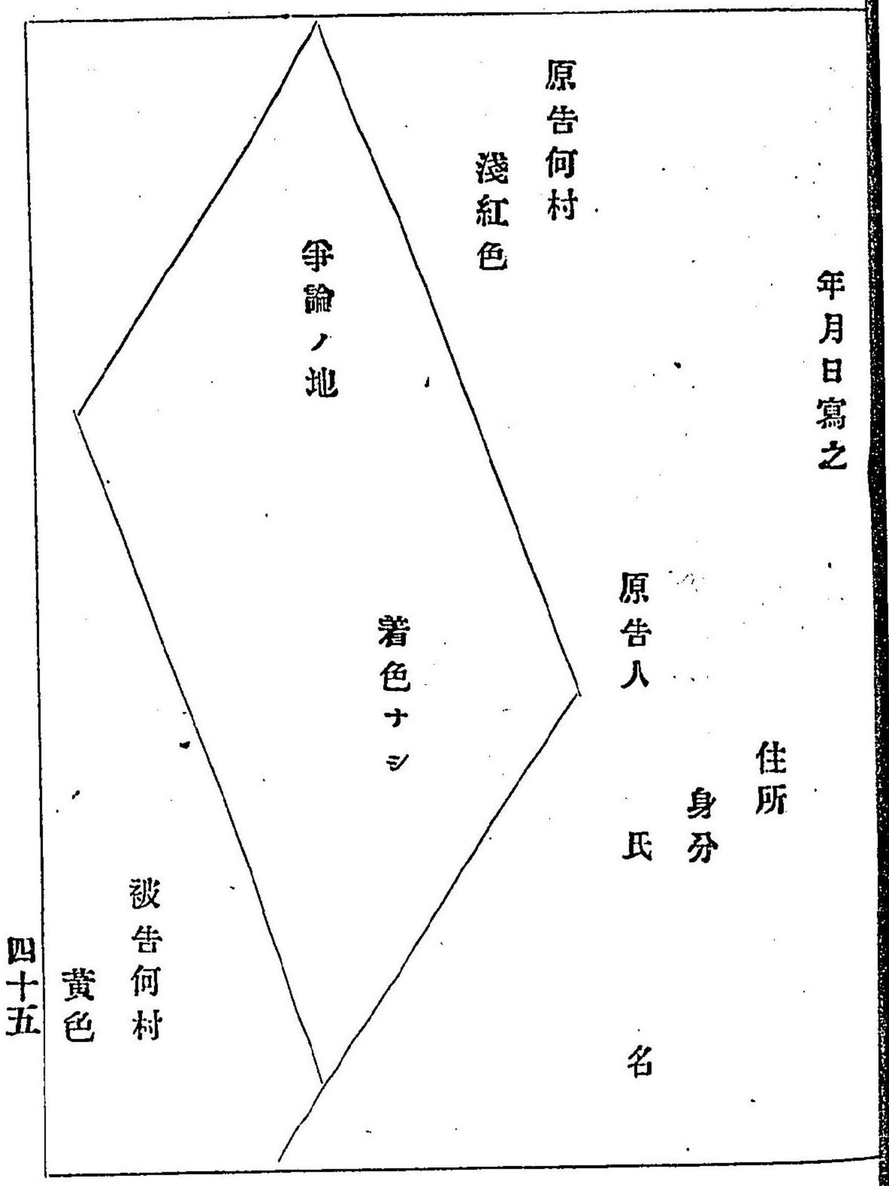
年月日ノ原圖何枚ノ一

年月日寫之

住所

身分

原告人　氏名



(甲)第八号

原告三人以上ナルヲ一人ニ付スル訴状

某ノ訴

住所
身分
原告人　氏　名

住所
身分
被告人　氏　名

標記云々

右原告人氏名申上候云々

年　月　日　氏　名　印

前書ノ儀原告私共連名ニテ御願可申上筈ニ御座候處病氣云々ニテ難罷出ニ付何ノ誰エ総代相頼候然ル上ハ何之誰ヨリ申上候事柄並ニ御受仕候事柄共後日ニ至リ私共ヨリ異議申上間敷候爲後証奥印仕候

住所
身分
氏　名　印

住所
身分
氏　名　印

年　月　日

某

裁判所長
氏　名

(甲)第九号

被告人連名中脱走又ハ病死人アルノ訴狀

某ノ訴

住所
身分
原告人　氏　名

住所
身分
被告人　氏　名

元住所
身分
被告人　氏　名

右何ノ誰ハ年月日脱走致シ候段
何町村役人何ノ誰ヨリ承知仕候

住所
身分
被告人　氏　名

右何ノ誰ハ年月日死亡致シ候段
何町村役人何ノ誰ヨリ承知仕候

右原告人氏名申上候云々

年月日

某

裁判所長

氏名

氏名印

五十

○第八章　諸種ノ答書ノ書式

〔第一〕　原告人ノ返リ證文ヲ所有シタル答書

負債主米金等ヲ返濟スルニ債主原ノ證書ヲ還附セサルヲ以テ二重ノ催促ヲナス訴訟ハ被告人其答書ニ返リ證文ハ債主ヨリ原ノ證受取ノ證書ヲ交ヲ寫載シ次ニ原告人二重ノ催促ヲ爲シタル旨ヲ書ス附スルヲ云フ

可シ　六年第二百四十七号布告第三十八條

原告人米金等ヲ受取リタルノミノ證書ニシテ貸附ノ米金ヲ受取リタル確證ノ文字ナク又ハ他ノ憑據トス可キ證跡ナキ時ハ其米金ヲ受取タルノミノ證書ヲ以テ返リ證文ト看做スヿヲ得ス　同第三十九條

〔第二〕　原告人ヨリ返濟延期ヲ破リタル答書

借用ノ米金等ヲ返濟ス可キ期限ニ至リ負債主ヨリ債主ニ熟談シテ返濟延期ノ約ヲ結ヒ其證書ニ押印ヲ爲シタル債主ヨリ其約ヲ破リ本證文ニ據リ訴ヘタル答書ハ對談一札トハ返濟延期ノ證書ヲ云フアルヿヲ記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ原告人ノ約ヲ破リタルヿヲ書ス可シ負債主ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル事件ヨリ起リ債主本證文ニ據リ訴出タル原由アル時ハ負債主ナル者己レヨリ約ヲ破リタル返濟延期ノ證書ヲ以テ原告人破約ノ證トナスヿヲ得ス　以上同第四十條第四十一條

〔第三〕　原告人證書ヲ僞造シタル答書

被告人ノ證書ヲ原告人僞造シタル答書ハ其僞造ヲ證スル爲ニ管轄町村

ノ役場ニ届ケ置キタル年月日ノ人別帳ノ寫ヲ記載シ次ニ此人別帳ノ印ト證書ノ印ト相違シタル旨ヲ書ス可シ（同第四十二條）

〔第四〕 經界ヲ爭フ答書

國郡鄉村山川田宅等ノ分界ヲ爭フ答書ノ方法ハ第十九條ヲ照ス可シ（同第四十三條○第十九條ハ第十三訴狀書式ノ部ニ掲ク）

〔第五〕 負債主別ニ其債主ヨリ受取ル可キ米金アルトキ其差引ヲ接續セル答書

負債主米金ヲ返濟ス可キ期限ヲ過キテ返濟セサルヲ訴ヘラレタルニ別ニ其債主ヨリ受取ル可キ米金アリテ其受取可キ期限モ亦過キタル訴ヘスト雖モ雙方均シク返濟ノ約期ヲ破リタルヲ以テ兩件ヲ接續シ差引ノ計算ヲ爲サントスル答書ハ負債主ヨリ其別ニ受取ル可キ米金ノ證書ヲ寫載シ次ニ差引計算ヲ爲スノ旨ヲ書ス可シ（同第四十四條）

〔第六〕 負債主ヨリ他ヘ貸附置タル米金ヲ以テ債主ヘ返濟セシヲ接續セル答書

負債主甲某債主乙某ヨリ借用シタル米金ヲ返濟スベキ期限ヲ過キテ訴ヘラレタルニ答ルニ當リ甲某其借用シタル米金ハ更ニ丙某ニ貸附ケ其期限ヲ過キ返濟セサルヲ以テ既ニ訴ヘラレタル乙某ノ事件ト未タ訴ヘサル丙某ノ事件トヲ接續シテ丙某ノ返濟ヲ爲ス可キ米金ヲ以テ乙某ニ返濟センヲ答ルヲ許サス何トナレハ乙ノ貸ス所ノ者甲ニシテ丙ニ非ス丙ノ借ル所ノ者ハ甲ニシテ乙ニ非ラサルヲ以テナリ（同第四十五條）

〔第七〕 對決前熟議解訟ヲ爲シタル答書（乙第二號書式參看スヘシ）

被告人訴狀ニ對シ辨解スルヲ能ハサル者ハ速ニ原告人ト熟議シ對決前ニ解訟ヲ爲シタル答書ハ原告人承諾ノ奥書連印爲サシム可シ

前條ノ場合ニテ貸借滯ノ訴ニ起ル解訟ノ答書ハ償ノ既濟又ハ未濟ト雖ドモ更ニ延期ノ約ヲ結ヒタル等ハ前條ニ照ス可シ各種違約ノ訴訟ハ原被雙方ノ熟和ニ至リ又ハ更ニ改定ノ條約ヲ立テタル等モ亦前條ニ照ス可シ（以上同第四十六條第四十七條）

〔第八〕對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書（乙第三號書式參看スヘシ）

原被告人對決審判前ニ被告人ヨリ負債ヲ返濟スルノ延期ヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完ク返濟スルノ後解訟ノ證書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ延期ノ旨趣ヲ書シテ原告人承諾ノ奥書連印ヲ爲サシム可シ（同第四十八條）

〔第九〕對決前他人代償延期ヲ約シ解訟スル答書（乙第四號書式參看スヘシ）

原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代償セシムヿヲ請ヒ原告人之ヲ承諾セハ熟議解訟ノ答書ニ其延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及原告人ノ奥書連印ヲ爲サシム可シ（同第四十九條）

〔第十〕對決前他人代償延期ヲ約シタル答書（乙第五号書式參看スヘシ）

原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代償セシムヿヲ請ヒ被告人之ヲ承諾シテ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完ク返濟スルノ後解訟ノ證書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及ヒ原告人ノ奥書連印ヲ爲サシム可シ（同五十條）

（乙）第一号（同上原十三号）

答書表紙ノ式（用紙甲一号ニ同シ）

年月日

某ノ答書

答書ノ式

住所
身分
氏名

五十六

住所
身分
被告人　氏名

某ノ答書ノ件ニ付ク人証書ノ証書ハ

右住所身分何之誰何々之儀訴出候付今何日御呼出之御狀
拝見仕御答申上候

私儀云々

證據ノ書類アラハ其寫ヲ記載スヘシ

右之通御座候

年月日

氏名印

某

裁判所長

氏名

(乙)第二号原十四号

對決前熟議解訟ノ答書

住所
身分

五十七

某ノ訴濟口ノ答

被告人　氏　名

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人ヱ熟談濟方仕候趣申上候

私儀云々

年　月　日

氏　名　印

前書被告人何之誰ヨリ申上候通熟議濟方仕候付此上對決ノ御裁判不奉願候

住所

身分

年　月　日

原告人　氏　名　印

某

裁判所長

氏　名

(乙)第三号原十五号

對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書

住所

身分

被告人　氏　名

某ノ訴濟口日延ノ答

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人ヱ熟談之上濟方日延約定仕候段左ノ通御座候

私儀云々

年月日　氏名印

前書被告人何之誰申上候通熟談之上濟方日延約定仕候付來何年何月何日迄御裁斷御猶豫奉願候

住所
身分
原告人　氏名印

年月日

某

裁判所長

氏名

(乙)第四号原十六号

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル解訟ノ答書

住所
身分
被告人　氏名

某ノ訴何之誰ヨリ日延代償ニテ濟口之答

右住所身分何之誰何々ソ儀訴出候付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人〜熟談之上親族友朋中何之誰ヨリ日延代償約定仕候段左之通御座候

私儀云々

年月日　氏名印

前書被告人何之誰申上候通私共ヨリ日延代償ノ約定仕候

段相違無御座候

年月日　　住所
　　身分
前書被告人何之誰申上候通私共承諾仕候付此上對決ノ御　代償人　氏名印
裁斷不奉願候

年月日　　住所
　　身分
某　　原告人　氏名印
裁判所長
氏名

(乙)第五号　原十七號
對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書

住所
身分
某ノ訴何之誰代償濟口日延ノ答　被告人　氏名
右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御狀
拜見仕原告人ニ熟談之上親族友朋中何之誰ヨリ代償濟方日延
ノ約定仕候段左之通御座候
私儀云々
年月日　　氏名印

前書被告人何之誰申上候通私共ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段相違無御座候

年月日　　代償人　氏名　印

住所

身分

前書被告人何之誰申上候通熟談之上何之誰ヨリ代償濟方日延約定仕候付來何年何月何日迄御裁判御猶豫奉願候

住所

身分

氏名　印

年月日

某

裁判所長

氏名

○第九章　民事訴訟用印紙貼用方

〔第一〕　請求ノ金額價額ニ應シ印紙貼用方

訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用スヘシ

金額價額五圓迄		二十錢
同　十圓迄		三十錢
同　二十圓迄		六十錢
同　五十圓迄		一圓五十錢
同　七十五圓迄		二圓二十錢
同　百圓迄		三圓

金額價額二百五十圓迄	六圓五十錢	
同　五百圓迄	十圓	
同　七百五十圓迄	十三圓	
同　千圓迄	十五圓	
同　二千五百圓迄	二十圓	
同　五千圓迄	二十五圓	
同　五千圓以上ハ千圓迄毎ニ二圓ヲ加フ		

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼スヘシ　十七年第五號布告

第二條

〔第二〕　人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノヘ貼用方

人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用スヘシ其控訴上告ニ加貼スルハ前條ニ同シ但シ人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戸長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スル事アルヘシ　同第三條

左ノ書類ニハ正本一通ニ付二十錢ノ印紙ヲ貼用スベシ

答辨書證據物寫辨駁書辨論書上申書陳述書等

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書　同第四條

左ノ書類ニハ正本一通ニ付五十錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財產差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書　同第五條

身代限リノ處分ヲ請求スル願書

〔第三〕　謄本下附ノ時差出ス受取書及勸解表ニ署名ノ時貼用方

裁判言渡ノ謄本ヲ下附スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下附スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚三厘ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但シ裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰共他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス（同第六條）

勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ（同第七條）

〔第四〕印紙ノ種類定價及貼用消印方

淡黑色印紙	一枚三錢	黑色印紙	一枚五錢
赭色印紙	同 十錢	茶褐色印紙	同 五十錢
黃色印紙	同 一圓	青色印紙	同 五圓
橙黃色印紙	同 十圓	綠色印紙	同 十五圓
矯栗色印紙	同 二十圓		

印紙ハ訴狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印章ヲ以テ消印スヘシ（十七年第四号布達）

◎第十章　呼出ヲ受ケタル者遲不參スル節處分方

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スル時ハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マテニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遲參不參スル時ハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ（十年第五号布告）

〔註〕勸解ヲ願ヒタル原告人若シ不參スルトキハ其願ヲ廢棄スルモノトシ被告人不參スルトキハ不調トセラルヘシ

裁判言渡ノ節遲參又ハ不參スルトキハ其言渡ニ對シ不服ヲ唱ヘ控訴スルヲ許サレサルヘシ

○第十一章　訴訟入費

第一　訴狀其外書類幷飜譯及繪圖認料　一枚十六行十五字詰ニ付十錢但シ一枚以下モ同價

訴狀並其外書類認料

右定限

第一　原告人ノ訴狀ノ正本副本

第二　被告人ノ答書ノ正本副本

第三　訴狀又ハ答書中ニ記載シ難キ證據ノ書類ノ寫

第四　審判中ニ原告又ハ被告ヨリ差出シタル證據ノ書類ノ寫

第五　訴訟中訴狀ニ關係スルノ事件ニ付原被雙方往復ノ文書　以上九年司法省甲第五号布達第一條

飜譯料

右定限

第一條ニ同シ　同第九條　一枚ニ付十六行十五字詰二圓但シ一枚以下モ同斷

測量繪圖認料

右定限

第一　長三百間ニテ盡ル時ハ　百間ニ付一尺ノ割　西ノ內一枚ニ付十錢

第二　長六百間迄　百間ニ付五寸ノ割　同　十二錢

第三　長千二百間迄　百間ニ付三寸ノ割　同　十四錢

第四　長六千間迄　百間ニ付二寸ノ割　同　十七錢

第五　長一万二千間迄　百間ニ付一寸ノ割　同　二十錢

第六　長一萬二千間以上　百間ニ付五分ノ割　西ノ内一枚ニ付廿四錢

一測量ニ及ハサル見取繪圖ハ間數ノ長短ヲ論セス大凡見積ヲ以テ簡便ニ圖引致スヘシ

但西ノ内一枚ニ付十錢同第十條

〔第二〕證人引合人並原被告人直者ノ手當旅費及通辨雇料

證人並ニ引合人手當　一日ニ付五拾錢

但シ八里以外ヨリ罷出止宿ノ者ハ二十錢ヲ增ス

右定限

裁判所ニ出席ヲ爲シタル者同第二條

證人並引合人旅費　滿八里ニ付十錢歸路モ同斷

但シ八里ヲ越レハ毎滿一里ニ付拾錢

右定限

第一　兩線ノ官道甲路ハ遠ク乙路ハ近キ時ハ現ニ甲路ヲ經ルト雖モ乙路ヲ以テ計算スヘシ

第二　本條ハ日本國管内ヲ通行スルモノヽ爲メ設ク　同第四條

〔註〕本條及ヒ第二條ノ原文ニハ引合人ノ下ニ差添人トアレ𪜈十三年司法省甲第二號布達ヲ以テ此〔規則中差添人ニ係ル件々一切刪除候條自今民事訴訟差添人ノ費用ハ訴訟入費トシテ請求スルヿヲ得ス〕トアルヲ以テ除ク又第三條第六條ノ證人引合人及原被告人直者ノ滯留手當ノ件ハ九年司法省甲第六號布達ヲ以テ〔追テ相達候迄執行不及〕トアルヲ以テ除ク

原告人又ハ被告人直ナル者ノ手當　一日ニ付五十錢

但シ八里外ヨリ罷出止宿スル者ハ二十五錢ヲ增ス

右定限

第二條ニ同シ　同第五條

原告人又ハ被告人直者旅費　滿八里ニ付十錢歸路同斷

但シ八里ヲ越レハ每滿一里ニ付十錢

右定限

第四條ニ同シ　同第七條

通辨雇料　一日ニ付三圓

右定限

第二條ニ同シ　往返旅費ヲモ定額ノ通計算ス可シ　同第八條

（第三）使賃及郵便電信料

使賃　滿一里每ニ十錢一里未滿ハ五錢

但シ歸路モ同斷（十四年司法省丁第二十六号達ヲ以テ使丁規則ヲ定メラルヽニ由テ使賃ノ差異アルヘシ）

右定限

第一　裁判所ニテ示談中雙方承諾ノ上原告被告雙方又ハ一方ノ者ヨリ遣ハシタル使賃

第二　裁判所ニテ示談中原告又ハ被告一方ノモノ掛裁判役ノ檢印ヲ經タル使賃

第三　原告又ハ被告一方ノ者出訴中違約シテ出席セサル時掛裁判役ノ檢印ヲ經テ違約ヲ責ムル使賃

第四　原告被告雙方ノ爲メ又ハ一方ノ爲メニ雙方又ハ一方ノ者ノ申立ニ因リ裁判所ヨリ臨時ニ遣シタル使賃　同第十一條

郵便並ニ電信料　定價

右定限

第十一條ニ同シ　同第十二條

○第十二章　身代限諸規則

〔第一〕華士族平民身代限規則五年第百八十七号布告

平民身代限抵償トシテ差押フ可ラサル品類

一時服着替共男女各二通宛

一夜具　男女共各一通宛

一本人ノ職業ヲ為スニ必要ナル諸物品但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等職業ニ必要ナル書類器械品物等其金額五十兩ニ至ル迄最モ本人ノ擇ム所ニ任ス可シ其直段ハ貸主借主ヨリ監定ノ者道具屋ノ類一人宛差出シ外入札人ト共ニ入札致サセ町村役人ニ於テ総入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ムヘキ事

一食料

家族ノ人口ヲ量リ一ケ月間用サル飯米ヲ殘シ置クヘキ事

但男丁ハ一日ニ付五合麥ハ一升雜穀ハ一升五合婦女幼少ハ四合麥ハ八合雜穀ハ一升二合宛ノ事

一鍋釜及炊具　各一通

華士族身代限抵償トシテ差押フヘカラサル品類

一家祿（此一項ハ五年第三百廿七号布告ヲ以テ取消スニ付署ス）

一大小類　男子一人ニ付各一腰宛

一冠服　男子一人ニ付各一通宛

一時服着替共　男女共各二通宛

一夜具　男女共各一通宛

一本人職業ヲ為スニ必要ナル諸物品

但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等ノ職業ニ必要ナル書類及諸器械品物等其金額五十兩ニ至ル迄最モ本人ノ擇ム所ニ任スヘシ其直

段ハ貸主借主ヨリ監定ノ者ノ類道具屋一人宛差出シ外入札人ト共ニ
入札致サセ村役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ム
可キ事

一鍋釜及炊具類　各一通

右身代限ノ節ハ三十日間裁判所門前高札場並ニ本人家宅ヘ掲示ヲ
出シ其次第傳承日限中追願ノ者ハ取糺ノ上可處置事

但新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ

一前條ニ記スル所ノ引殘スヘキ必要物件ノ内未タ代價ヲ拂ハサル分
ハ賣主ヨリ日限内訴出レハ現品ヲ取戻スコトヲ得ヘシ

但現在着用ノ衣服夜具ハ此限ニアラス　次項入札ノ件ハ掲ク

〔第二〕僧侶身代限規則六年第八十八号布告

抵償トシテ差押フ可ヲサル品類

一食料

寺内ノ人口ヲ量リ僧侶ハ一日ニ五合麥ハ一升雜穀ハ一升五合尼
及婦女幼少ハ四合麥ハ八合雜穀ハ一升二合宛一ケ月間用フル飯
米ヲ殘シ置クヘキ事

一建物

法用ニ必要ナル箇處

但本堂等ヘ建添候トモ榮耀ニ屬スル箇所ハ此限ニアラス

一寄附帳ニ記載スル部分

一什物帳ニ區別シテ記載スル古來傳承ノ寶物並法用ニ必要ナル部分

一法衣　寺主並所化及尼共　各一通宛

一時服着替　寺主並所化及婦女共　各二通宛

一夜具　寺主並所化及婦女共　各一通宛

一鍋釜及炊具類　各一通宛

一本人職業ヲ爲スニ必用ナル金額五十兩ニ至ル迄ノ物品ヲ差除ク等其他ノ方法ハ華士族平民身代限ニ同シ

〔第三〕同居異産及別居異産ノ子弟等身代限

父兄ト同居ノ子弟或ハ別居シテ財産ヲ異ニスルモノ又ハ父既ニ家督ヲ其子ニ讓リ隱居別宅シテ財産ヲ異ニスル者自今一已ニ金銀借受候分其證券中本家ノ戶主保証ノ調印無之上ハ貸主ニ於テ本家ノ財産ヲ目的トシ貸シ與フル筋無之候ニ付若シ右等ノ者共返金相滯訴訟ニ及ヒ候節同居ノ者ハ其身所持ノ品物ノミ分産異居ノ者ハ其財産ノミヲ以テ之ニ當テ身代限ニ裁判申渡候條爲心得此段相達候事五年二百七十五號布告

〔第四〕身代限ニ遭フ者ヘ對シ期限未滿內ノ貸金穀アル者財産糶賣金ノ分配ヲ得ヘキ事

貸金穀又ハ義務ヲ得可キ者定約期限未滿內ニハ訴出ルヿヲ許サヽル規則ナレ𪜈其負債者又ハ義務ヲ行フヘキ者右期限未滿ニ身代限ニ遇フ時ハ訴出ルヿヲ得ヘシ六年第二百五十二號布告第一條

定約期限未滿內ニ訴出ル者ハ滿期後訴出ル者ト同一ノ權利ヲ有シ身代限財産糶賣金ノ分配ヲ受ルヿヲ得ヘシ同第二條

請人證人等連印ニテ本人返濟相滯ルニ於テハ引受返濟可致ノ明文之レアル證書ヲ取置タル者ハ本人身代限財産糶賣金ノ分配ヲ受ケ尙ホ不足アラハ滿期ノ時ニ至請人證人ニ掛リ之ヲ訴ルヿヲ得ヘシ同第三條

定約期限未滿內ノ債主ハ身代限ニ遇フ負債主ニ對シ期限未滿內ニ訴フルモ滿期後ニ至リ訴フルモ其者ノ情願ニ任スト雖𪜈身代限ニ遇フ者ノ動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置タル債主ハ右動不動産ヲ身代限ノ糶賣ヲ爲スニ付己レノ受取ルヘキ金高ヲ求ムルヿヲ得ヘキ而已ニ

テ糶賣ヲ爲スヿヲ拒ムヲ得可ラス同第六條

動不動產ヲ引當又ハ質物ニ取置タル者ハ其財產糶賣金ノ內ニテ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ其定約ノ證書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ計算シ受取ル可キノ求ヲ爲シ裁判所ニ於テハ糶賣金分配ノ規則ニ從ヒ引當又ハ質物ヲ取置タル者ニ分配スヘキ金高ヲ引渡ス可シ同第七條

引當又ハ質物ヲ取置カサル金穀ノ債主定約期限未滿內ニ訴出ル時ハ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ定約ノ證書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ計算シ受取ルヘキノ求ヲ爲シ裁判所ニ於テハ糶賣金分配ノ規則ニ從ヒ處分ヲ爲ス可シ同第八條

〔第五〕身代限ニ遭フ者期限未滿內ノ債主ヘ對シ滿期ニ至リ返濟スルヲ得可キ事

身代限ニ遭フ者期限未滿內ノ者ニハ滿期ノ時ニ至リ返濟セント欲スルトキハ別段請人ヲ立請人ヨリ動不動產ヲ引當又ハ質物ト爲シ違變ナキヲ證明シテ原告人ノ承諾ヲ求ルヲ必要トス六年第二百五十二号布告第四條

負債者滿期ヲ保スル爲メ改メテ請人ヲ立請人ヨリ動不動產ヲ引當又ハ質物ト爲シ違變ナキヲ證明シ原告人之レヲ承諾スル時ハ其原告人ハ此回ノ身代限財產糶賣金ノ分配ヲ求ムルヿヲ得ヘカラス同第五條

〔第六〕身代限ニ遭フ者ノ地所ヲ質入書入ニ取リタル債主其掲示中ニ訴出サルモ先取ノ特權アル事

地所ノ質入書入ハ尋常ノ私約ト違ヒ戶長役場ノ帳簿ニ記載シテ奥書割印モ之レアル公正ノ證書ニ付若シ身代限リ財產中質入又ハ書入ノ地所アリテ其債主掲示中ニ訴出サル節ハ其地所糶賣代價ノ中ニテ債主受取ルヘキ元金高ニ糶賣金配當ノ日マテノ利息ヲ加ヘ第一番ニ引キ去リ裁判所ニ於テ之ヲ糊封シ掛リ官員兩名調印ノ上戶長役場ニ預

ケ置キ後日債主願出次第相渡スヘシ但質入書入ノ金高及ヒ利息等不分明ノ節ハ本人呼出シ取調可申事八年第五十三号布告

〔第七〕身代限ニ遭フ者ノ物品處分

身代限ノ物件ハ入札拂ニ出ス可シ尤金銀器等ノ定價判然タル物品ハ眞價ヨリ低ク賣拂フヘカラス且ツ賣拂金ノ總額ハ其者ノ負債及ヒ右一件ノ諸費ヲ償フニ過クヘカラス、但入札拂ノ日ヨリ三日前ニ其物品及ヒ場所時刻ヲ裁判所門前並ニ其者ノ居宅及ヒ各地士民群集ノ所ヘ掲示シ及ヒ新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ且ツ貸主借主ヨリ差出セシ監定ノ者モ他人ト共ニ入札致サセ村町役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定メ之ヲ現金ニテ取立裁判所ヘ差出スヘシ五年第百八十七号布告末項

⊙第十三章　金穀貸借請人證人辨償規則

金銀借用返濟相滞リ本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハコノ不足ノ分請人證人ヘ濟方申渡シ猶不相濟ニ於テハ其請人證人ヲモ身代限申付其上不足相立候ハヽ借主並ニ請人證人ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第皆濟可致事八年第百二号布告第一條

借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ハ其請人證人ヘ濟方申渡シ候上不相濟ニ於テハ身代限申付猶不足相立候ハヽ請人證人ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致事同第二條

身代限申付候上不足相立身代持直シ次第皆濟可致旨左ノ雛形之通裁判所ニ於テ其ノ原文ノ裏ヘ記シ押印ノ上貸主ヘ可相渡置事同第三條

裏面雛形

第一條ノ書式

表書ノ元利金何百何拾圓相滞ルニ付借主何ノ誰身代限申付ル處不足相

立證人何ノ誰ヲモ身代限ヲ以テ辨償爲致都合金何百何拾圓ニ相成ニ付右請取殘リ何百何拾圓ハ借主何ノ誰請人證人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第皆濟可致モノ也

年　月　日　　某裁判所印

第二條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓借主何之誰逃亡死去跡相續人無之ニ付請人證人何ノ誰〻身代限ヲ以テ辨償申付ル處金何百何拾圓ニ相成ニ付右受取殘リ何百何拾圓ハ請人證人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直次第皆濟可致モノ也

年　月　日　　某裁判所印

○第十四章　利息ノ成規

（第一）利息ノ制限

凡ソ金穀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス（十年第六十六号布告第一條）

契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十（二割）百圓以上千圓以下百分ノ十五（一割五分）千圓以上百分ノ十二（一割二分）以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシ（同第二條）

法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサルトキ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ハラス百分ノ六（六分）トス（同第三條）

第二條ニ依リ定限ノ利息外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金捧利等ノ名目ヲ用ル者アル共總テ裁判上無効ノ者トス（同第四條）

（第二）利息計算方

預ケ金穀　　賣掛代金

諸職人手間代　地代
店賃　立替金穀
敷金　証據金
受負金　手附金
小作金穀　村入用之割合金穀
雇人給金　飯料
諸品ノ損料　無利息貸金穀

右之類ニテ金穀等可相渡期限ニ臨ミ渡方延滞致候節ハ其期限ノ日且期限ナクシテ金穀入用次第可相渡旨ノ約定ヲ爲シタル分ハ渡方ノ掛合ヲ受ケ候日ヨリ何レモ利息ヲ生シ可申筋ニ付其節ハ雙方示談ヲ以テ利息ノ歩合ヲ定メ証書ヲ受取渡シ致スヘシ若シ其儀ナクシテ追テ訴訟ニ及フ時ハ明治六年第九十二号布告ニ因リ處分致シ候條此旨可

相心得候事、但債主利息ヲ請求シテ負債者承諾セサル時ニ限リ本文ノ處分ニ及フ可シ若シ雙方示談整フカ又ハ債主ニ於テ請求ヲ爲サヽル分ハ此例ニアラス六年司法省第四十三號布達七年同省第二十二號布達但書追加

〔註〕本文明治六年第九十二号布告ハ金穀貸附証文中ニ相當ノ利息又ハ利息トノミ記載セシ者ハ今後金高一ケ年ニ付利息百分ノ六ニ定メ裁判セラルヽ旨ナレモ十年第六十六号布告利息制限法ニ依テ消滅ス

明治六年當省第三十八号金穀貸借利息ノ儀裁判決定迄計算可致旨及布達置候處右ハ貸借ノ金穀返濟之日亦ハ身代限配當金處分濟ノ日迄利息ヲ計算致シ候儀ト可相心得此旨布達候事六年司法省第百七十四号布達

〔第三〕裁判上ニ於テ私約ノ償金罰金等ノ處置

返還期限ヲ違フルトキハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金

科料等ヲ差出スベキヲヲ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之レニ相當減少ヲ爲スコトヲ得十年第六十六号布告第五條

◎第十五章　財産書入質入ヨリ起ル訴訟ノ處分

第一款　動産不動産ヲ書入金穀借入ヨリ起ル訴訟

動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シ右期限中書入ノ動産不動産流亡又ハ燒失ヲ爲スト雖モ負債ハ身代限濟方可申付事六年第三百六號布告第一項

動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借シ濟方ノ期ニ臨ミ右書入ノ動産不動産ノ相場高下アリテ糶賣ノ價ヒ負債ノ高ヨリ餘分アル時ハ其餘分ハ借主ニ與フベシ若シ其價ヒ負債ヨリ不足ナレハ身代限リ濟方可申付事同第二項

第二款　質地ヨリ起ル訴訟

壬申二月十五日第五十号布告ノ通地所賣買被差許候上ハ質地ハ貸借上ノ事柄ニ付翌十六日以後ノ證書ニテ質地ヨリ起ル訴訟ハ糶賣ノ手續ヲ以テ濟方可申付事、但壬申二月十五日以前取引質地ニテ年季明不受戻時ハ從前ノ通流質タルベキ事六年第五十一号布告

從前質地ヨリ起ル訴訟ハ證文中ニ年季明不受戻候ハヽ流地ニ可致旨之文言有之分ハ期限ヨリ二ケ月右文言無之分ハ十年ノ内訴出候ハヽ受戻申付來候處當八月ヨリ以後ハ流地文言有無ニ不拘年季明不受戻ルテ訴訟ヲ爲ス時ハ明治六年第五十一号御布告ニ基キ二ケ月亦ハ十ケ年ノ猶豫ヲ與ヘス直ニ糶賣ノ手續ヲ以テ裁判可致事、但原告被告雙方熟議ノ濟方ハ此限ニアラサル事六年司法省第四十六号布達

（第三）一箇ノ地所建物ヲ二重三重ニ書入金穀貸借ノ處分

一箇所ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ第一番ノ金主

ヘ引當ニ入レ置キ候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込又其地所ヲ引當ニ借添致シ候儀ハ不苦尤借主身代限ノ處分ニ相成候節ハ右地所糶賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡申ヘク若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルトキハ其不足ノ分ヲ償フニ並ニ第三番以下ノ金主ニ償フニハ平常引當ナキ債主ニ身代限償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡可申事、但第二番ノ金主ヘ受取候證文ヘハ地所代價ノ餘分ヲ見込借添候旨ヲ書載可申事 原六年第十八号布告第十條ニテ七年第五十二号布告改正文

〔註〕建物ヲ二重三重ニ書入ノ件ハ八年第百四十八号布告第十二條ニ詳カナレトモ本條ノ旨趣ニ異ナルコトナキヲ以テ畧ス

〔第四〕質入書入ノ地所建物天災流亡等ノ節代質無之時ノ處分

質入年季中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失フニ至ル時ハ地券ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ代リ質ニ差入サセ證文書替ヲ求ムルコトヲ得ヘシ若シ代リ質ニ差入ルヘキ地所物品等コレナキトキハ訴訟ノ末身代限リノ處分ニ及フヘシ又池成野地成等ニ變換シ或ハ闕崩等ノタメニ其地ノ幾分ヲ失フトキハ變換ノ模樣及殘存ノ大小ニ應シ規則ニ基キテ地券書替願出ヘキ儀ニ付若シ其變換殘存ノ地ハ貸金穀高ノ償ヲナスニ足ラサルト見込場合ニ於テハ貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ增質ニ差入サセ證文書替ヲ求ムルコトヲ得可シ若シ增質ニ差入ヘキ地所物品等無之時ハコレ亦訴訟ノ末身代限ノ處分ニ及フヘキ事、但貸主借主相對示談ハ格別ノ事 原六年第十八号布告第十二條ニテ七年第五十二号改正文

書入質ノ建物燒失流亡等ニ至リシキハ貸主ヨリ借主ニ對シ代リ質ヲ受取ルヿノ求メヲ爲スヿヲ得ヘシ若シ借主代リ質ヲ出スヿヲ肯ハス又ハ出シ能ハサル時ハ借用金穀返濟期限未納内ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シ元利返濟ヲ求ルノ訴ヲ爲スヿヲ得ヘシ 八年第百四十八号布告第十四條

○第十六章 諸種ノ訴訟ノ處分

〔第一〕 連借ヨリ起ル訴訟

金穀其他借用證書中借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記載セサル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキ者等有之トモ其借用シタル金穀其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者ヘ償却可申付候條此旨布告候事、但右證書中分借ノ員數無之トモ別ニ分借ノ明文アルハ此限ニアラス 八年第六十三号布告

〔註〕 本文ノ件ニ付訴狀認方ニ係ル件ハ第七章(第十七)連名ノ被告人ヲ訴フル訴狀ヲ參看スヘシ

〔第二〕 負債者失踪後ノ訴訟

債主定約期限未滿内ニ負債者ノ失踪ヲ知ル時ハ定約滿期ニ至リ直ニ裁判所ヘ訴出ツ可キ事 八年第六號布告第一條

債主未タ負債者ノ失踪ヲ知ラス定約滿期又ハ出訴期限將ニ盡ントスルヲ以テ裁判所ヘ出訴シ裁判所ノ與書ヲ以テ負債者ニ掛合始テ其失踪ノ事ヲ知ル時ハ右與書訴狀ヲ再呈シ其旨屆ケ出ツヘキ事 同第二條

前條々ノ場合裁判所ニ於テハ一應訴狀採上ケ直ニ失踪者所管ノ戸長ヘ申付失踪ノ年月日ヲ訊明シタル、上債主差出シタル證書ニ負債者何年何月何日家出ノ末行衛相分ラサルニ付追テ本人見當ルカ又ハ三十六ケ月ノ滿期後跡相續ヲ爲ス可キ者ニ掛リ此裏書證書ヲ以テ再訴致スヘキ旨ヲ記載シ訴狀下戻ス可キ事 同第三條

債主於テ前條ノ裏書證書ヲ受取置キタル上ハ本人見當リ又ハ捜索三十六ケ月ノ時限ハ明治六年十一月第三百六十二號布告出訴期限ノ限内ニハ加算致サヽル事同第四條

〔第三〕夫妻離縁ノ訴訟

夫婦ノ際已ヲ得サルノ事故アリテ其婦離縁ヲ請フト雖モ夫之ヲ肯ンセス之レガタメ數年ノ久ヲ經テ終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ權理ヲ妨害スルモノ不少候自今右樣ノ事件於有之ハ婦ノ父兄弟或ハ親戚ノ内附添直ニ裁判所ヘ訴出不苦事六年第百六十二號布告

〔註〕本文ノ件ニ係ル訴狀ノ認メ方ハ第七章(第九)夫妻離別ノ訴狀ヲ參看スヘシ

〔第四〕預ケ金穀ヨリ起ル訴訟

預金穀ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サヽルノ明文ナキ分ハ出訴候トモ本年五月一日ヨリ以後ハ貸金同樣ニ裁判可致候條此旨布告候事七年第二十七号布告

預ケ金穀ノ訴訟ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サヽル明文アルモノハ年數ニ拘ハラス受理スヘキ成規ニ候處自今二十年以前ニ係ルモノハ一切裁判不及候條此旨布告候事十年第十二号布告

〔註〕本文ノ件ニ係ル訴狀ノ認メ方ハ第七章(第二)預ケ米金淹滯ノ訴狀ヲ參看スヘシ

〔第五〕無期限貸借ノ訴訟

金穀貸附證文ノ内返濟期限無之歟又ハ出來次第返却可致等ノ證書取置後日訴出ツルニ於テハ裁判申渡ヨリ十二ケ月ノ内濟方可申付事但書署ス〇六年第十號布告

〔第六〕院省府縣等及郡區戸長ヘ對スル訴訟

各人民ヨリ院省使府縣等ニ對スル訴訟ハ當分各上等裁判所ニ於テ受理候條此旨布達候事八年司法省甲第五號布達

從來人民ヨリ郡區長及戸長ノ職務上ニ對スル詞訟ハ各上等裁判所ニ於テ受理審判致シ候處自今地方裁判所ニ於テ受理審判候條此旨布達候事但受理審判等ノ手續ハ是迄各上等裁判所ニ於テ取扱ヒ來候振合ニ可準候事十四年司法省甲第四號布達

〔第七〕課税及備荒儲蓄又ハ區町村會等ニ不服ノ訴訟

課税ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日内ニ訴出ツヘシ但納税期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ十五年第二十二號布告

備荒儲蓄金及區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年五月第貳拾貳号布告ニ據ルヘシ十五年第七拾四号布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリ出訴セントスルモノハ部ヲ明治十五年五月第貳拾貳号布告ニ依ルヘシ十七年第二十三号布告

○第十七章　年月零記ノ證書ヲ證據物トスル事

來ル七月（明治六年ノ七月）十日以後ノ證書類及ヒ公私ノ文書ニハ總テ年号月日ヲ記載可致若シ疎漏ニシテ年月日ノ内何レニテモ略記シタル時ハ裁判上證據ニ不相立候事六年第二百十二號布告

明治六年第二百十二號ヲ以テ年月日ノ内何レニテモ略記シタル諸證書類及ヒ公私文書等ハ裁判上證據ニ不相立旨布告相成候ハ其證書全ク證據ニ不相立ル儀ニハ之レナク只其年月日ノ早晩ヲ定ムヘキ證據

ニ相立サル儀ニ候條右等ノ證書ヲ以テ年月日ノ早晩ニ拘ハラス其記入ノ事件ニ付訴訟ニ及フトキハ取揚ケ裁判ニ及フヘク候條此旨布達候事

八年司法省甲第一號布達

○第十八章　詞訟代人

詞訟又ハ勘解ニ付己ムヲ得ス代人ヲ出サントスル者ハ親族又ハ相當ノ者ヲ撰ミ管轄裁判所ノ許可ヲ受クヘシ但シ代人タル者同時ニ二人以上ヨリ二件以上ヲ受任シ其他不適當ノ所爲アリト認ムル時ハ裁判所ニ於テ之ヲ差止ムル事アル可シ

十七年第二號布達

○第十九章　傍聽

民事訴訟審判ノ儀人民一般傍聽差許候條此旨布告候事、但男女ノ間ニ起リ別風儀ニ關スル訴訟ハ此限ニアラス

八年第三十號布告

傍聽セントヲ願フモノハ裁判所庶務課ヘ名刺住所氏名ヲ出シ其許可ヲ得ヲ後訟庭ニ出ツヘキ事、但當日訟庭ノ都合ニヨリ其數ヲ減省シ又ハ一同差許サヽルモ之アルヘシ

八年司法省甲第二號布達第一項

〔註〕傍聽人訟庭ニ就クトキハ沈默敬聽スヘシ若シ紛鬧ニシテ裁判官審問ノ妨礙アルト認ルトキハ公聽者ヲ退クルヿアル可シ

○第二十章　雜件

〔第一〕司法省ヘ對シ歎願或ハ再審願ハ採用セラレサル事

刑事民事ノ裁判上ニ係リ司法省ヘ對シ歎願或ハ再審願ト唱ヘ書面差出候者往々有之候處右ハ固ヨリ法律ニ戻リタルモノニ付自今指令ニ及ハサルハ勿論却下ノ手續ヲモ不致候條此旨布達候事

十四年司法省甲第三號布達

〔第二〕建物ニ付訴訟スルトキ裁判所ヨリ其建物ニ戶長ノ公證ヲ差留フル、事

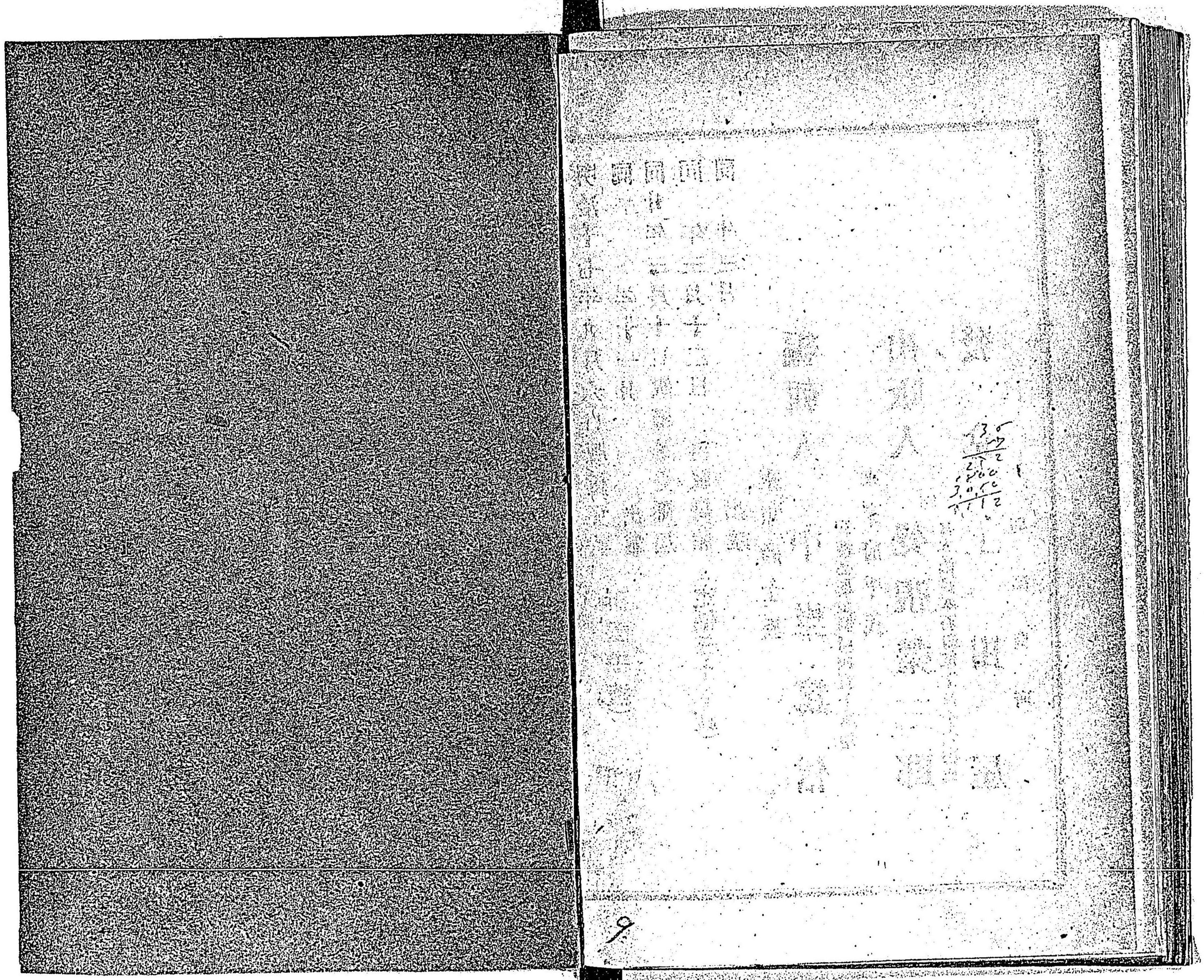
建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀ヲ受取タルトキ

ヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物ノ在ル地ノ戸長ニ對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送達セシムヘシ右ノ報知狀ニハ何府縣管下住居何某ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地ノ建物ヲ書入質ト爲ス證文ニ公書スルヿヲ差留ムル旨ヲ記載スヘシ而シテ其訴訟落着ニ至リシ時ハ公證ノ差留ヲ解クヿヲ速ニ戸長ニ報知スヘシ 八年第百四十八號布告第十條

訴訟手續終

明治十七年九月六日版權免許（訴訟手續）
同　年十一月　出版
同廿年三月十日版權讓受御届
同　年三月十二日　再版御届（定價三十五錢）
同　年三月　出版

編輯人　東京府士族　中里篤信　北豐島郡金杉村四百十番地
出版人　東京府平民　覺張榮三郎　日本橋區本石町貳丁目十六番地
發兌　上田屋　同區同所



25
450

25
450

036817−000−7

25−450

訴訟手続

中里　篤信／編

M20

BBS−0283